



PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会

東日本決勝 美浦GC (茨城) 東日本決勝大会・最終日結果のお知らせ

< PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会 東日本決勝・最終日 >

- ◇2017年4月23日 (日) ◇天候：晴れ
- ◇茨城・美浦GC (15-17歳の部男子6550ヤードほかカテゴリ別)
- ◇出場160人

<東日本決勝 最終日概況>

IMGA世界ジュニア(7月11~14日、米サンディエゴ)の日本代表14人が決まった。

15-17歳の部男子は、中島啓太(東京・代々木高2年)がこの日も4アンダー68で回り、2日間通算9アンダー135で2位に11打差をつける圧勝で、日本代表となった。日本代表となる2位には最終ホールのバーディーで植木祥多(埼玉・埼玉栄高3年)が食い込んだ。同女子は、吉田優利(千葉・麗澤高2年)がこの日5アンダー67をマークし、通算3アンダーで1位となり、5年ぶりの日本代表となった。2位には75で回った河野杏奈(千葉・麗澤高3年)が入った。13-14歳の部男子は亥飼台(うてな、茨城・滑川中3年)と小林大河(東京・金町中2年)が、同女子は花田華梨(かりん、栃木・宝木中2年)と榎本杏果(東京・新宿中2年)がそれぞれ日本代表入りした。

また、15-17歳の部男子1位の中島に男子ツアー「HEIWA PGM CHAMPIONSHIP」出場権、13-14歳の部男子1位の亥飼に同大会の出場を争う「HEIWA PGM Challenge」出場権がそれぞれに与えられた。

これで西日本決勝大会、6歳以下の部決勝大会を含めて、日本代表30人が決定した。

IMGA世界ジュニア日本代表は以下の通り。

▽15-17歳の部男子

【1位】中島啓太(東京・代々木高2年) = 135

【2位】植木祥多(埼玉・埼玉栄高3年) = 146

▽同女子

【1位】吉田優利(千葉・麗澤高2年) = 141

【2位】河野杏奈(千葉・麗澤高3年) = 152

▽13-14歳の部男子

【1位】亥飼 台(茨城・滑川中3年) = 151

【2位】小林大河(東京・金町中2年) = 153

▽同女子

【1位】花田華梨(栃木・宝木中2年) = 158

【2位】榎本杏果(東京・新宿中2年) = 158

▽11-12歳の部男子

【1位】吉沢己咲(群馬・藤岡北中1年) = 151

▽同女子

【1位】川畑優菜(千葉・佐貫小6年) = 149

▽9—10歳の部男子

【1位】山本大勢（福岡・西小倉小4年）＝165

▽同女子

【1位】二宮佳音（群馬・笠懸北小5年）＝152

▽7—8歳の部男子

【1位】今屋大雄（東京・月島第三小3年）＝155

▽同女子

【1位】荻原すいみ（埼玉・明戸小2年）＝158

※同スコアはプレーオフによる

●東日本決勝 最終日ハイライト1 ◇15—17歳の部男子◇茨城・美浦GC（6550ヤード、パー72）

植木祥多（埼玉・埼玉栄高3年）が、最終ホールのバーディーで杉原大河（徳島・生光学園高3年）を1打振り切って、世界ジュニア日本代表に滑り込んだ。インスタートで最終9番のバーディーパットは13メートル。先に上がっていた杉原と通算3オーバーで並んでいることは知らなかった。「確率は低いけど狙いました。ショートはしたくなかった。最後の最後で来てくれました」と、強めに入った。ホールアウト後に日本代表入り分かり「うれしい。去年、この大会で初日トップだったのに行けなかった。去年一番悔しい出来事だったので、今年は優勝して世界に行こうと思っていました。（優勝した）中島（啓太）くんには届かないと思ったけど代表に入れてよかった」と笑顔を見せた。この1年間、メンタル面で強くなったという。「この大会はゴルフの力よりメンタルの差が出る大会と去年思った。この1年、優勝争いをたくさんして、関東ジュニアで優勝もでき、たぶん強くなったと思います」という。世界ジュニアに向け「世界の選手と戦うのが楽しみです」と、話していた。

圧巻の優勝を飾った中島はこの日も「ショットが好調でリラックスして回れた」と、4アンダー68をマーク。通算9アンダーに伸ばした。「トリーパインズは2回回ったことがあります、ムズい（難しい）。距離も長いし。でも、今回のようなゴルフが出来たら、優勝争いできるとしています」と、美浦GCでの好スコアに自信をつけた様子だった。

●東日本決勝 最終日ハイライト2 ◇15—17歳の部女子◇茨城・美浦GC（6328ヤード、パー72）

吉田優利（千葉・麗澤高2年）と、同じ学校の先輩河野杏奈（千葉・麗澤高3年）が日本代表入りを決めた。吉田は「珍しくショットが良かった。こんなにいいゴルフは久しぶりです」と振り返るように、6番で4メートル、7番で5メートルを入れる連続バーディーもあって5バーディー、ボギーなしの67で回り、首位に3打差スタートからぶっち切りの通算3アンダー141で日本代表入りを決めた。混戦になった2位争いは、第1日77で首位に6打差4位と出遅れた昨年世界ジュニア代表の河野がバーディーなしながらも75と粘り、通算8オーバーでホールアウト。「ひょっとしたらプレーオフに残れるかもしれない」と、パッティンググリーンで練習中に逆転の2位で代表入りを知った。「めっちゃうれしいです。去年は5打差を逆転して代表になったけど、今年は上位は強い人ばかりだったので。でも、難しい美浦GCなので何が起こるかわからないと思ってプレーした」と振り返った。

5年ぶりの世界ジュニアとなる吉田は「小6の時は、グリーンで全部ピンを持たされたり、なめられたような感じがした。今は絶対にその時より強くなっていると思うので、負けない気持ちでやりたい」と話し、河野は「改造されたトリーパインズでやれるのを楽しみに準備したい」と、2人そろって笑顔を見せていた。

●東日本決勝 最終日ハイライト3 ◇13—14歳の部女子◇茨城・美浦GC（6328ヤード、パー72）

混戦となったが、昨年日本代表の花田華梨（栃木・宝木中2年）と榎本杏果（東京・新宿中2年）が通算14オーバー158で3位に1打差で抜け出し、IMG A世界ジュニア日本代表を決めた後にプレーオフを行って花田が1位、榎本が2位となった。10番でのプレーオフは「お互いに代表が決まって気が緩んでしまった」と、花田がボギー、榎本がダブルボギーで決着した。第1日の首位を守った形の花田は「最終18番で1・5メートルのバーディーを外して、もう半分あきらめた。よかったです」と2年連続代表に笑顔を見せた。首位に3打差の6位で出た榎本は「絶対に逆転しようと思って前半36で回ったら、トップに1打差になっていた。勝手に自分にプレッシャーをかけてしまった」と、10、18番でダブルボギーをたたいたことを反省した。昨年11-12歳の部で13位に終わった花田は「納得いかなかった。リベンジできるように、今年は頑張るってシード権を取りたい」と話し、初出場となる榎本は「自己ベスト（71）を世界ジュニアで更新して、シード権を取りたい。メンタル面とアプローチを強化していく」と意欲を見せていた。



写真：

1段目／左 = 15-17歳男子 中島啓太、右 = 15-17歳男子 植木祥多

2段目／左 = 15-17歳女子 吉田優利、右 = 15-17歳女子 河野杏奈

3段目／左 = 13-14歳女子 花田華梨、右 = 13-14歳女子 榎本杏果

4段目／左下 = 15-17歳男子代表の中島（左）と植木、中下 = 15-17歳女子代表の吉田（左）と河野、
右下 = 13-14歳女子代表の花田（右）と榎本 ©IJGA2017